

国際波動科学研究機構ホームページ

Research Organization of International Wave Science (ROIWS)

設立 : 平成 27 年 4 月 1 日

理事長 : 元島栖二

- ・岐阜大学名誉教授、
- ・(一社) 日本ヘリカルサイエンス学会会長
- ・ヘリカル統合医療学会会長
- ・(株) CMC 総合研究所代表取締役

(理事) : 間瀬銈一郎 (弁理士)、他、若干名

(設立目的) :

“波動”と聞いただけ、多くの人が、“新興宗教的”、“うさんくさそう”、“眉唾的”“訳の分からないもの”など、素直に耳を傾けてくれず、拒否反応を示す。一方、“病は気から”、“波動が合う”、“プラシーボ効果”、“靈感”、“直感”など、目に見えない現象、科学的に説明がつけられない現象が多いことも一般に認識されている。本学会では、波動或いは波動の共鳴現象とその見える化（可視化）技術、あるいは見えない現象を科学的視点に立って検証し、“見えないものを科学する”ことにより、一般の人にもわかりやすく、また、科学者にも理解が十分進み、それを広く活用できる社会を構築することを目標とする。

(設立趣旨)

マックス・プランクの量子論・量子力学は、分子、原子、電子、素粒子などのミクロな世界の法則を解き明かす学問である。その根源は、「すべては振動であり、その影響である。現実には何の物質も存在しない。すべてのもの、各々のものは、振動から構成されている」という。一方、一般相対性理論は、宇宙というマクロの世界の性質や運動、それらを包み込む広大な時間と空間（時空）を記述する学問である。近年、量子論・量子力学と一般相対性理論を統合する新しい理論である「超ひも理論」(Super String Theory)が注目されている。この超ひも理論では、宇宙・物質の究極の要素は、粒子ではなく、超微小の振動する「ひも」であり、森羅万象は振動する超微小の「ひも」からなっていると考える理論である。宇宙の根源は、振動する超微小の「ひも」からできており振動しているという。すなわち、この世の中のあらゆる物質、非物質、現象は、絶えず固有の振動数でもって振動し、その固有振動数で発信していることになる。もちろん、物質だけでなく、人間の意識も、心も、肉体も、或いは経済活

動も、文明も、つまり、目に見える物体も見えない現象も、この世の森羅万象は、すべて波動を出し、固有振動数で振動しているのである。

発信された波動の振動数が同じ場合には、互いに共振・共鳴するという電磁気学の基本現象が起こる。波動或いは電磁波は人間の目には見えないし、共振・共鳴現象も直接見ることはできないので、一般の人の意識の上に乗せるには目に見えるようにする、すなわち“見える化（可視化）”する必要がある。この方法十分として、古くから、ダウジング(地中探査)法が、地中に隠れた水源、金鉱脈、油田、断層等を探し当てるのに使用されている。最近、波動の共振共鳴現象を用いて健康チェックを行う方法が注目されている。例えば、ドイツの振動医学の基本原則として用いられているパウル・シュミットが開発したバイオレゾナンス（生体共鳴）法では、波動を目に見えるようにする為に、螺旋状のアンテナのついた金属製ロッド（波動センサー）の動きの状態を用いている。また、大村恵昭教授が開発したコーリングテスト法（BDORT, Bidigital O-ring Test）では、共鳴現象が起こると、被験者の指の筋肉が弛緩し二つの指でつくったリング（Oーリング）が、検査者が左右に引っ張ると簡単に開いてしまうという方法を用いている。その他、矢山利彦医師が開発したバイオレゾナンス法なども広く用いられている。これらの方法を十分理解するには、科学的な視点に立っての検証が必要であるが、現状では十分ではない。

また、“病は気から”、“波動が合う”、“プラシーボ効果”、“靈感”など、目に見えない現象、科学的に説明がつけられない現象が多いことも一般に認められている。本学会では、科学的な視点に立ってこれらの波動法、或いは目に見えない現象を科学的に検証し、一般の人にもわかりやすい論理を構築することを目標とする。

(事務局) : 〒501-1193 岐阜市福光東 1-23-23 (株)CMC 総合研究所本社内
(Tel/Fax 058-231-3823
(e-mail) smotojima.cmcard@salsa.ocn.ne.jp
(URL) <http://cmcard.jp/>